



一般社団法人  
日本ヘルスケア歯科学会

事務局 東京都文京区関口1-45-15-104

☎ 03-5227-3716 Fax 03-3260-4906

URL <https://www.healthcare.gr.jp>

E-mail : center@healthcare.gr.jp

編集代表 林 浩司

編集制作 有限会社 秋 編集事務所

	年会費	入会金
歯科医師	12,000円	5,000円
スタッフ/その他	3,000円	3,000円
郵便振替口座	00190-7-407895	
名義	一般社団法人日本ヘルスケア歯科学会	
銀行振込口座	三菱UFJ銀行 江戸川橋支店 普 0051809	
名義	一般社団法人日本ヘルスケア歯科学会	



## CONTENTS

巻頭 ヘルスケアミーティング2023を振り返って.....	p.1	25年以上ヘルスケア歯科診療を続けて、わかったこと、思うこと	p.22
ヘルスケアミーティング2023開催報告.....	p.2	[PerioPad]と[電子サブカルテシステム]紹介.....	p.23
25周年企画 結果発表.....	p.13	事務局から.....	p.23
書評/オンラインサロン紹介.....	p.14	マー君のenjoy my life/オンラインサロン紹介.....	p.24
セミナー紹介.....	p.15	ウェビナー報告.....	p.25
寄稿 カリオスタット開発への道.....	p.16	ウェビナー告知板.....	p.26
新入会者/新入会 法人会員.....	p.17	第7期第2回オピニオンメンバー会議報告.....	p.27
デンタル撮影マニアック 最終回.....	p.18	ヘルスケア・フォーラム.....	p.29
フォーラム【ヘルスケアと赤ちゃん歯科】13.....	p.20	コミュニケーションセミナープレミーティング/ 東京ワンデーセミナー/認証ミーティング 案内.....	p.32
第22回外傷歯学会世界大会を後援します.....	p.21		
Healthcare bibliography.....	p.21		

## 催しものご案内

## ① 新オンラインサロン

日時：2024年1月9日(火)

内容：寺岡徳光のGRATE EBM CLUB

## ② 新オンラインサロン

日時：2024年2月13日(火)

内容：チェアを増やすにあたり診療の質を落とさずにやり切るための工夫②

## ③ 新オンラインサロン

日時：2024年3月12日(火)

内容：未定

## ④ Webセミナー

日時：2024年2月21日(水)

内容：コミュニケーションセミナー  
プレミーティングin オンライン

## ⑤ スプリング・セミナー

日時：2024年3月10日(日) 13:30

場所：A.P.浜松町& Zoom  
オピニオンメンバー会議併催

## 重要なご案内

● 以下の同封物をご確認ください

- 2024年度会費納入案内  
当学会の会計年度は1月から12月までです。2024年度会費納入案内を同封いたしましたので、お早めにお振り込みくださいますようお願い申し上げます(行き違いになりましたらご容赦ください)。
- 東京ワンデーセミナー  
2024案内

## ヘルスケアミーティング2023を振り返って



林 浩司 (コアメンバー)

2023年11月3・4日、昨年と同じく田町の建築会館にてヘルスケアミーティング2023が開催されました。COVID-19感染症も5類になって久しく、人々の往来もほぼ通常通りに戻りつつあるなか、締め切り前に会場定員190人が満員となり(オンライン参加は約70人)懇親会では90人が集まり大変盛會に終わりました。また、当日は11月にも関わらず春のような陽気で、参加者は休憩時間に飲み物を買に行ったり会館中庭でくつろいだりと気持ちのいい2日間でした。

さて今回のヘルスケアミーティングは2つの大きな企画がありました。1つ目はカリエスマネジメントの集大成ともいえるう蝕の活動性に焦点を当てた内容、もう一つは当学会が発足して25周年を迎えた歩みと今後の在り方を考える企画がありました。

1日目は「チェアサイドで実践するカリエスマネジメント」というメインテーマで、最初に杉山精一さんから当学会が取り組んできたカリエスマネジメントを紹介されました。次に、景山正登先生から「診療室で取り組む初期う蝕のマネジメント」という演題でう蝕の活動性を評価する方法やカリエスリスクをコントロールするプログラム等々、具体的な活動性について焦点を当てた内容の講演をいただきました。症例発表では、宇田川歯科医院の大嶋宏美さんとわたなべ歯科の佐藤千恵子さんから、歯科衛生士の立場からカリエスマネジメントの役割と方法、患者さんとの実際の関わり方について報告がありました。当学会では数年間に亘り病変を検出(Detection)するためのICDASやXR、カリエスリスクアセスメントとして患者さんとリスクを共有するための

CRASPなどを紹介してきましたが、さらに今回う蝕の活動性について理解を深めたことで明日からの臨床で大いに役立つ内容だったのではないかと思います。

さて一方、ヘルスケア歯科学会創設25周年記念事業として学会ホームページで特設ページを開設してアピールをしてきました。会員参加型のフォトコンテストや川柳などの募集を行い、当日会場ではご当地お土産コーナーや法人ブースのスタンプラリーを開催するなど例年とは違った企画で、記念式典を感じることができました。

2日目午前では「四半世紀を経て—ヘルスケアのDNAを引き継ぐために」というテーマで前代表の杉山精一さん、現代表の高橋啓さんに登壇いただき当学会の25年の成果や受け継ぎたいこれからの診療スタイルなどの基調講演をされました。

杉山さんからは設立総会の思いから現在までの当学会の歩み、またすべての患者データを採得し記録を残すことの重要性、各年代別の一人ひとりの症例を検証し振り返った発表がありました。これはIT化が進み来院患者すべてをデータベースに記録して必要ときに臨床データの解析が可能になったことが重要だというお話がありました。次に、それを引き継ぐ現代表の高橋さんからは臨床の基本治療を大事にして、正確なデータ

を残す意義をお話しされました。自分たちは日々臨床のなかで様々な患者データを採得していますが、規格性のある資料を残し成果は出ているか検証することが大切であり質の高い治療へと続くという内容は、自分も襟を正す思いで聴講しました。また古市貴暢さんの座長の下、秋元秀俊さんの忌憚のない質問に代表者お二人の真のヘルスケアDNAを引き出したのではないかと思います。当学会設立当時では30～40歳ぐらいの会員の方も、四半世紀を迎え次世代に継続していく現状のなかでこのようなメッセージは有意義だったと思います。

最後になりますが、このニュースレターで他の会員が報告・感想を紹介しているように、この企画以外に様々なテーマで2日間を通して多くの会員が発表して大変活気のあるミーティングになったと思います。またそれぞれ質疑応答では積極的な意見が会場からあり、久しぶりにこの様な演者・聴講者が一体となった活発な学会を開催することができました。

さて、来年のヘルスケアミーティング2024のメインテーマは初期及び中等度の歯周病に焦点を当てた企画が進行中です。さらに今後30年35年と続くであろう学会の発展に期待して、また皆様にお会いできることを楽しみにしています。



## ヘルスケアミーティング 2023

### 開催報告

2023年11月3 - 4日

建築会館ホール&オンライン (Zoom ウェビナー)



### Day1

11/3 12:30-17:00

チェアサイドで実践する  
カリエスマネジメント



座長 田中正大さん

### 報告

ヘルスケアミーティング2023は東京・田町の建築会館ホールにて、11月3日(金祝)・4日(土)の2日間開催されました。

1日目のプログラムは、高橋啓代表の挨拶と今年の趣旨説明から始まり、コアメンバーの田中正大さんの座長により進行しました。

最初の発表は杉山歯科医院 杉山精一さんより、「Dill & Fill からカリエスマネジメントへ」という演題でした。杉山さんが考案したCRASP解説と、実際はど

川嶋 剛 (国立市開業)



のように行うのか、カリエスリスクを把握し、どのようにモニタリング、改善をしていくかについての発表でした。

特別講演は、中野区開業の景山歯科医院 景山正登先生による「診療室で組む初期う蝕のマネジメント」でした。う蝕リスクコントロールプログラム立案のための検査と手段から説明があり、初期う蝕の検査方法、フローチャート、具体的なエナメル質う蝕病変の治療法(どのようにフッ化物を使用するかなど)を数々の文献に基づいて、理論的でわかりやすい



杉山精一さん



景山正登さん

発表でした。

症例報告1では、江戸区開業の宇田川歯科医院 宇田川義朗さんと歯科衛生士の 大嶋宏美さんによる「ようこそ、カリエスマネジメント診療所へ」

大学教育で重きを置かれている“いかにうまく充填修復を行うか”という視点ではなく、歯科医師や歯科衛生士が歯科医院で年齢に応じたアプローチを行って、実際に、カリエスマネジメントを実践しているという発表でした。

症例報告2では、春日部市開業のわたなべ歯科 渡辺 勝さんと、歯科衛生士の 佐藤千恵子さんによる「う蝕の活動性の有無と経過の記録」

わたなべ歯科では

- ・削らないとう蝕の進行が止められないとき
- ・削らないと症状が改善されないとき
- ・削らないと他の組織に影響を与えてしまうとき

という基準を設定し、実質欠損はあるものの切削介入は行わないで経過を観察している症例の発表でした。

その後の交流会ではポスター発表や、各種コンテストなどの表彰式が行われました。

とくにポスターの内容は、今までと比べて内容が格段に向上しているのがみて取れました。

## 参加して

中本知之（神戸市開業）



宇田川義朗さん



大嶋宏美さん

私は4年ぶりのリアル参加でした。杉山精一さんの講演では、学会が発足当初からカリエスマネジメントをどう扱ってきたか、その変遷がよくわかりました。また、「症例や医院データで臨床を振り返る姿勢」は、25周年を迎えた学会にとってこれからも大切にしていけるべきものだと感じます。

景山正登さんの講演は、初期う蝕病変の診査・診断を非常に深く追及されていて感銘を受けました。私はこれまで平滑面の初期病変に対してICDASの変化を追っていただけでしたが、活動性の評価法も臨床に取り入れていこうと思いました。ただ、現実に当院に来られる患者さんは社会的決定要因をもった方も少なくないため、一つひとつの歯面の診査・診断や治療に時間をかけられないことも多く、落とし所が難しいです。

宇田川義朗さんの講演では、若い参加者のことも考え、わかりやすくカリエスマネジメントの実践を紹介されていました。大嶋宏美さんの患者T君との信頼関係がすごいですね。口腔内の保護者とし

てT君が厚い信頼を置いていることが、結果にも表れていました。

渡辺 勝さんの講演では、冒頭の雑談から感じられる景山さんへのリスペクトが印象的で、佐藤千恵子さんの発表と治療の進め方、心理学的根拠に基づくアプローチ等、多くの学びがありました。「先輩が次々退職し、気がついたら一番上になっていた5年目の歯科衛生士」という本人の考え次第で不幸ともチャンスともとれる境遇は、当院にもまったく同じ5年目のスタッフが在籍していますので一緒に頑張りたいです。

ディスカッションで景山さんが「患者さんがう蝕をどう捉まえるか？ 患者さんがむし菌と認識するなら、たとえ進行が停止していても、我々はどう考えればよいのか？」とおっしゃっていて、この言葉にハッとさせられました。私自身は「医療は患者さんのためにある」と思っているのですが、日々視点を広くもっていきたいものです。全体として示唆に富んだいい企画をありがとうございました。

## 基調講演「診療所で取り組む初期う蝕のマネジメント」を聴いて

奥山洋実（歯科衛生士 有田歯科医院）



渡辺 勝さん



佐藤千恵子さん

歯科衛生士を続けて気がつけば37年目になる。新卒のころはまだ患者さんのう蝕は多く、多くの修復補綴を目の当たりにしてきた。う蝕に対する考え方も、とにかく細菌の数を減らそうという非特異的プラーク仮説から、ミュータンス菌などの特定のう蝕原性菌に対するアプローチが必要とされた特異的プラーク仮説、そして現在は頻繁な砂糖摂取により常在菌のバランスが崩れるという生態学的プラーク仮説と時代とともに変化してきた。そうした考え方の変化は歯科衛生士の役割にも影響が大きかったように思う。新卒のころはブラッシング指導が主だった歯科衛生士業務が、現在はフッ化物の使用や食生活などの患者さんの生活背景や口腔に対する患者さんの価値観にアプローチすることが欠かせない業務になったと感じている。

また景山先生は講演のなかで「リスクは目に見えない」「う窩は存在しない限り

1回の検査だけで保存修復が必要かどうかを判断することは不可能」と話されていた。診断をするのは歯科医師であってもメンテナンスで何度も患者さんを見るのは歯科衛生士である。小さな変化を見逃さないことが求められる。歯科衛生士は患者さんの生活背景や歯に対する価値観などを見る広い視野と、口腔内の歯面をフォーカスして見る、二つの視野を持ち合わせる必要があるのだとあらためて認識した。口腔内を見るときは、歯面をよく乾燥し、プラークがどこに付着しているか、その粘調性はどうか、歯面からプラークを除去したとき、歯面には光沢があるか、象牙質は軟化していないか、丁寧に見て触れていく、唾液は十分出ているかを見る。そして口腔内写真での記録も規格的に撮り比較していく。日々の臨床で、患者さん一人ひとり丁寧に人を見て口腔内を見ていくことの大切さを認識する機会となりました。



## Day2

11/4 9:30-12:15

四半世紀を経て  
一ヘルスケアのDNAを  
引き継ぐために〈1部〉

## 報告

加藤 徹（東根市開業）



ヘルスケアミーティング2023、2日目の第1部は「四半世紀を経て一ヘルスケアのDNAを引き継ぐために」のテーマで前代表の杉山精一さんと、今年新たに代表に就任された高橋啓さんによる基調講演であった。発会当初からの会員である私にとって、非常に感慨深い講演であった。

開業して10年が過ぎ、開業時の借金返済の目処も立って医院の経営は安定してきたが、反面、自分が自信を持って治療を行った症例で、思わぬトラブルが発生したり、数年でう蝕が再発するなどのケースに遭遇するたびに、このような診療スタイルでいいのだろうか？と疑心暗鬼で診療を行っていた。



座長 古市貴暢さん

25年前、日本ヘルスケア歯科研究会の設立趣旨が書かれた設立総会の案内を受け取ったとき、そして盛大に開催された設立総会に参加したときの「これからの自分の診療はこれだ！」の思いは、今も記憶に新しい。

杉山前代表は、ヘルケアのDNAとは、すべての患者データをデータベースに蓄積しその臨床データから得られた知見や疑問を臨床に生かしていくことだと話された。一方、高橋現代表は「関わるすべての患者さんに、質の高い基本治療を行うこと」だと話された。一見まったく別のことのようにも思えるが、患者利益を最優先課題と考えれば根本は同じなのだと思う。

私が考えるヘルスケアのDNAとは、

来院するすべての患者さんの規格化された口腔内写真やエックス線写真・各種検査データをデータベースに蓄積し、そこから得られた知見を生かして来院患者の口腔（全身）の健康維持・増進に、現在から将来に渡って寄与していくことだと考えている。

生涯を通じて良好な口腔機能の維持を行うために、「原因除去」を基本とした診療を行うことが、ヘルスケア歯科診療なのだと思う。

「歯周治療はできるだけ早く、う蝕治療は後からゆっくり、定期的なバイオフィルムの破壊と除去を続けなさい」発会当時、熊谷崇さんから口酸っぱく言われたことが、今も頭から離れない。

## 歯科医院のDNAも組み換わる雰囲気国会

武内義晴（日野市開業）



杉山精一さん

設立趣旨に賛同して入会したときから25年目のミーティングは、節目を記念碑的に振り返ることが目的ではない、自分たちが進んできた足元を確かめ、皆が進もう。という静かな決意を感じ、改めて賛同の意を覚えました。

聴きながら自分たちの歯科医院にもDNAがあると気づきました。研究会に傍観者として参加し、思いを持ち帰っても医院を変えられなかった模索の時代がありました。あるとき、スタッフ全員から参加したいと言われたことをきっかけに、研究会の他のメンバー、歯科医院スタッフと交流、サポートしてもらいながらヘルスケア診療に医院のDNAが変異してきました。今回もヘルスケアミーティング参加翌週の医院ミーティングで、皆が多数の実行したいことを付箋に記載し、話し合いました。

「DNAは変わらない、変わることの二面性がある」「基本治療を磨いて高める」「基本ヘルスケア診療だから、皆同じ目線で考えられる」「チーム医療は患者も含め

た総合診療」「変えていけないのは患者との関係性、病気も変わらない」「ヘルスケア研究会は有病率が高いときにできた会、今は有病率が低い、変化を経験したからこそ新しいことができる」「未来はわからないけれども変わることはできる」「ヘルスケアでなければ今のような診療室は作れなかった」という講演の言葉ひとつひとつに頷き、自分たちに重ねていました。

そして歯科衛生士口腔内写真撮影セッションでのほっこりとした太陽の暖かさを感じる教え方・DNAが組み換わりやすい雰囲気こそ大切だと感じとりました。

この会は、不完全や途上であることも否定されず、失敗をおそれない、サポート文化があると、今回も先に進む医院の発表からたくさん吸収し、この方向に進んでいいのだという安心感を覚えました。会もコロナの時代を経てWebという全国に広げやすい新たな翼を得た一方、同窓会のような味わいも熟成されてきたと感じる2日目でした。



高橋 啓さん

## 感想

千葉真奈美（歯科衛生士 あんぼ歯科クリニック）

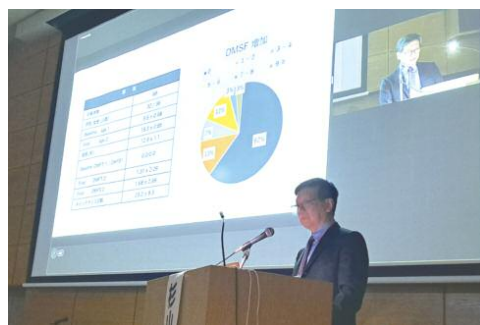


ヘルスケアミーティング2日目は杉山精一先生と高橋啓先生による講演がありました。規格性のあるデータをとること、それらを分析し、振り返り、そこから少しずつリスク改善をしていくことの重要性を学びました。

私が現在勤務している歯科医院ではヘルスケア診療はやっておらず、これから取り組もうとしている状況です。そんななか、今回は当院から歯科医師2名、歯科衛生士3名、歯科助手2名で参加しました。ヘルスケアミーティング後、参加したスタッフは「とても勉強になった」「すべての話が腑に落ちる内容だった」と話していました。今回のヘルスケアミーティングは、これからヘルスケア診療をはじめようとする医院が求めている内容だったと思いました。実際にヘルスケア診療をしている医院がどのように診療しているかをみんなで学ぶことができよかったです。まずは規格性のあるデータをとることを目標として、医院のみんなで口腔内写真撮影の練習に取り組んでいきたいです。

私は普段診療するなかで、患者によっては「この人にはちょっと聞きにくいな…」と思うと問診がもれてしまっていることがあります。また、ハイリスクの患者に対しては毎回慎重にカリエスチェックや問診をしますが、ローリスクだと思われる患者にはカリエスチェックや問診が甘くなっているときもあります。しかし、リスクは変化するので「この人は大丈夫」と過信せず、すべての患者に対して情報が欠けることのないように日々データをとり続けることが、目に見えないリスクを見落とさないようにするために重要であり、それが自分の改善点だと思いました。

今回4年ぶりに参加しましたが、実際に参加することで得られることがたくさんありました。講演会では新しい学びがあり、そして懇親会では日本各地から集まった方々と交流できることで悩みを分かち合いアドバイスをいただく。これはリアル参加だからこそ得られることなので、また来年も参加したいです。



## Day2

11/4 13:30-15:00

四半世紀を経て  
一ヘルスケアのDNAを  
引き継ぐために〈2部〉

## 報告

長岡 守（大村市開業）



2日目午後の発表は、歯科衛生士育成プログラム運営委員会チームから「常に進化し続ける衛生士育成の実際」と題して育成プログラム指導者で、認定歯科衛生士の林由加里さんから、2006年にこの

プログラムがスタートし今年で16期となり、2023年10月末現在195名の認定歯科衛生士が誕生していること、新型コロナウイルス禍にも、講義を動画にて視聴できるようにし、受講生をオンライン



田中正大さんと林 由加里さん



蓮見 愛さんと山田美穂さん

(Zoom)にてサポートすることで中断することもなく育成プログラムが継続されていることなどが紹介されました。

また、運営委員会の田中正大さんから、歯科衛生士自ら受講することを院長に宣言し、院長は全力でサポートすることとのアドバイスがありました。

次に、禁煙支援プロジェクトチーム「禁煙宣言、禁煙支援、そして防煙」と題して歯科衛生士の山田美穂さん、蓮見 愛さんより自らの育った環境と喫煙問題、禁煙支援についての活動などの話がされました。

またこれからはさらに「防煙」活動として子どもたちにタバコを吸わせないための啓蒙や電子タバコなどについての正しい知識の情報発信などにも力を入れて

いくことなどが報告されました。

今回最後の発表として「人生 100 年時代に向けて ヘルスケアミーティング 2022 から一歩踏み出してみた」と題して、南宇和郡鬼北町の河野雄一郎さんから「医療法人さほくの里歯科医院の場合」、神戸市の曾野偉鍊さんからは「その歯科の高齢者の方への取り組み」としてそれぞれの地域や医院での高齢化問題の紹介され、またそれぞれの医院から昨年、ヘルスケアミーティング 2022 にスタッフとともに参加、スタッフからの提案で院内での新たな取り組みとして来院患者の身長・体重・握力を測定し来院患者の健康管理に貢献、地域の他職種、地域包括支援センターなどとの繋がりが形成されていることが報告されました。

## 感想

渡辺洋子 (歯科衛生士 こんどう歯科医院)



河野雄一郎さん



曾野偉鍊さん

私はヘルスケアミーティングには、オンラインで参加しました。

2日目午後からは、「歯科衛生士育成プログラム」「禁煙支援プロジェクト」「人生 100 年時代に向けて (高齢者のヘルスケア診療)」の3つの発表がありました。

そのなかで私がいちばん印象深かったのは、林 由加里さんが発表された歯科衛生士育成プログラムについてでした。というのは、発表のなかに出てきたスタッフ講習会に、私は初めて参加し、育成プログラムの運営の実際を見たからです。

私は昨年、第 15 期基礎コースの受講生でした。検定合格後、このプログラムにスタッフとして関わる機会をいただければぜひやってみたいと思い、スタッフ講習会への参加を希望しました。

当日は、受講生の実習がよりよいものになるように、習得レベルの目安や時間配分など、細部までスタッフ間で話し合いを重ねていました。受講生としてコー

スに参加しているときには、表に出ないこうした工夫や配慮には気づいていませんでした。

また、林さんの発表から、スタッフ講習会や各回終了後の反省会で出た意見は、スタッフで共有して、指導の内容や方法のすり合わせをすることで、育成プログラムは維持され、16 期にわたり継続しているとわかりました。

このように長期に続いている育成プログラムに、自分に関わることへの思いは、目標とする先輩の指導を間近で見られる期待が半分と、私にできるだろうかという不安が半分です。まずは、「受講生に近い目線で考えられるスタッフ」になりたいと思います。

今年はオンラインで参加しましたが、来年はぜひ会場で参加したいと思います。2日間、オンラインでも受講できるようにしてくださり、ありがとうございました。

ポスター展示



① わたなべ歯科 (春日部市)



② 医療法人社団清泉会 杉山歯科医院 (八千代市)



③ 太陽歯科衛生士専門学校 (荒川区)



④ 医療法人社団明恵会 古市歯科医院 (高松市)



⑤ 医療法人 須藤歯科診療所 (倉敷市)



⑥ 医療法人 はやし歯科医院 (真岡市)



⑦ たかぎ歯科医院 (神戸市)



⑧ つば川歯科医院 (高座郡寒川町)



⑨ わたなべ歯科 (春日部市)



## 法人展示

今年は初の試みとして「展示ブーススタンプラリー」が行われ、休憩時間にブースを廻って景品を手にした方が多く見られました。2日目には展示法人各社のプレゼンテーションがあり、参加者への熱心なアピールがありました。

また希望された法人会員の資料等を抄録とともに配布し、コマーシャル動画を休憩時間に数回流しました。

### 【出展法人賛助会員 6 社】（会員番号順）

- |               |          |
|---------------|----------|
| 株式会社ヨシダ       | アクセス     |
| インターアクション株式会社 | 株式会社リード  |
| 株式会社 soeasy   | 株式会社 FOD |

※当初、有限会社サンフォート様が出展予定でしたが、急遽変更になり株式会社 FOD 様に出展されました。

※表彰式とコマーシャル動画は学会会員用ホームページ内「会員限定動画閲覧集」から視聴可能です。



## ホワイエにて



来場者のコミュニケーションツールとして、白地図を設置しました。ヘルスケア歯科学会の縮図がわかります。



コア・オピニオンメンバーを中心に会場参加時に地元の【銘菓】をお土産に届けてもらいました。たくさんのお菓子里に「歯科学会? (笑)」の声もありました。



## ヘルスケアミーティング 2023 参加者アンケートから

2020年から当学会ではZoomを活用した催しを数多く開催しており、年々オンラインの参加に抵抗がなくなっている印象です。また、移動制限もなく、マスクの着用も任意になったこともあり、北海道から九州まで多くの方が会場に足を運んでくださり、マスクなし笑顔でのリアル参加を楽しまれました。

### ○ アンケートから抜粋（もっとも印象に残った講演とその理由）

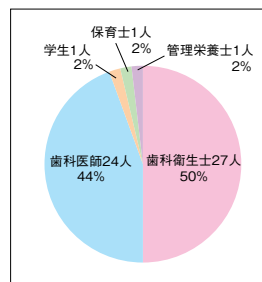
- ・ 1日目 う蝕のリスク評価について、活動性やリスクは見えにくく、どう評価すべきか指標について悩んでいたところであったため。（Dr・会場）
- ・ 1日目 景山先生のご講演、活動性を中心に、わかりやすく内容の濃いご講演だったため。（Dr・Zoom）
- ・ 1日目 「ようこそ、カリエスマネジメント診療所へ」 小児患者への長期にわたるブラッシング指導に加えて食事指導での関わり方が勉強になった。サブカルテへの記入内容や、歯磨きカレンダーの活用、CRASPへの細かなメモの取り方など、患者に対する想いをとても感じられる症例発表でした。（DH・Zoom）
- ・ 1日目 わたなべ歯科佐藤さんの講演、長期メンテナンスにおける関係性の重要性。（保育士・会場）
- ・ 2日目 杉山先生の講演、長期的にデータをとることで経過をみて自分たちの学びにイカせるということを改めて感じました。（管理栄養士・会場）
- ・ 2日目 高橋先生の講演、「ヘルスケアって一体何？」を簡潔にお話しされていて、会員歴の浅い方々に伝わったのではないかと思います。（DH・会場）
- ・ 2日目 お昼の物販プレゼン、当院も物販の扱いを考えるとところだったので参考になりました。（Dr・会場）
- ・ 2日目 お昼の口腔内写真撮影、まさに自分が最近悩んでいたことでもあったため非常に参考になった（DH・会場）

### 参加者登録者数

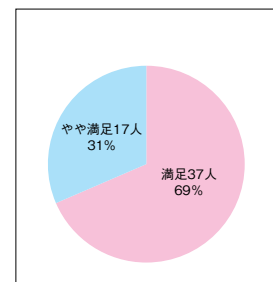
会場 190名（会員歯科医師 62名／非会員歯科医師 5名／会員その他 81名／非会員その他 34名／学生・研修医 2名／取材 6名）

Zoom 74名（会員歯科医師 25名／非会員歯科医師 2名／会員その他 40名／非会員その他 6名／学生・研修医 1名）

### 職種は？



### 内容の満足度は？



アンケート  
回答数 54

### オピニオンメンバー会議併催 ヘルスケア・スプリングセミナー 「う蝕活性試験：CAT21 テストの開発から臨床応用—これからの展望」

日時：2024年3月10日(日) 13:30～  
 場所：AP浜松町 Room-C（東京）& Zoom ウェビナー  
 講師：下野 勉（岡山大学名誉教授）  
 参加対象者：会員および会員診療所スタッフ  
 参加費：オピニオンメンバー 無料（要登録）  
     会員歯科医師 5,000円  
     会員スタッフ 2,000円  
     非会員スタッフ 3,000円  
 ※オンライン同額  
 申込み先：日本ヘルスケア歯科学会ホームページ

### 東京ワンデーセミナー 2024

日時：2024年5月19日(日)  
 場所：日本歯科大学 東京キャンパス 141 講堂  
 定員：100名  
 参加費：会員歯科医師 10,000円  
     会員その他 6,000円  
     非会員歯科医師 13,000円  
     非会員その他 9,000円  
     研修医 2,000円  
     学校関係者（教員・学生）無料・要登録

### 兵庫ヘルスセミナー（公認団体）

日時：2024年5月19日(日)  
 場所：神戸市産業振興センター会議室  
 講師（予定）：藤木省三・杉山精一・阪下 卓  
 内容：歯科衛生士と歯科医師が一緒に受講できる内容になる予定  
 詳細は次回ニュースレターに掲載

### 第21回 認証ミーティング

日時：2024年8月4日(日)  
 場所：未定  
 エントリー受付締め切り：  
 2024年3月31日





壁の華?



# Photo Gallery



スタッフセッション  
みんなおいでよ!  
ランチミーティング



仲良し?



銘菓うめえか!?



懇親会 (11/3)  
九州熱中屋 田町三田 LIVEにて





# 結果発表!

## みんなで参加しよう! 25周年企画

設立 25 周年を祝して会員参加型の企画を立ち上げ、ニュースレター vol.26 no.1 号から 10 月 1 日まで募集を行いました。

「ヘルスケア歯科診療的 川柳コンテスト」には 30 件、「旅する大白歯ちゃんフォトコンテスト」には 6 件の応募があり、オピニオンメンバーの厳選なる審査により以下の作品が選ばれました（フォトコンテストは応募が 6 件のため最優秀賞のみ審査とし、5 件で賞金は山分けとなりました）。

ヘルスケアミーティング 2023 の交流会内で発表され、賞金と賞状授与が行われました。

# 旅する大白歯ちゃん フォトコンテスト



私たちと仲間になろう!  
林 由加里 DH コーススタッフ



吹頭頂から望む斜走降線は日本アルプスの如く  
古市 真輔 古市歯科医院



新1年生と東北町より愛をこめて  
河野 雄一郎 さほくの歯科医院



大白歯ちゃん in #nontangarden  
(フォローお願いします!)  
中本 知之 西すずらん台歯科クリニック



カリエスマネジメントセミナーだよ、  
大白歯ちゃん  
杉山 悟一 杉山歯科医院



がこのせんせと卒業生  
山田 美穂 大船歯科衛生士専門学校



大白歯ちゃんは、高木景子さん（神戸市開業）、安田直美さん（松戸市開業）からお借りました。ありがとうございました。

## ヘルスケア歯科診療的 川柳コンテスト



29  
メンテ中 いつもねてるね 口開けた  
P.N しほ 20代 女性

14  
計報聞き カルテを紐解き 個人を偲ぶ  
P.N Sugar 60代 男性

03  
歯科へ来て笑顔で会話の花が咲く  
P.N 坂本雄太郎 50代 男性

20  
衛生士 患者と記録に育てられ  
P.N 院長は? 60代 男性

20  
院長が 一番暇だよ 院内で  
P.N あかね 40代 女性



### 25周年プロジェクト

## 書評

### 対話で学ぶ

### EBM はじめの一步

著；蓮池 聡／寺岡徳光

出版；ヒョーロン社刊 2023年7月

定価；4,400円（税込）

株式会社評論パブリッシャーズから「対話で学ぶ EBM はじめの一步 論文を読み解き、臨床に活かすために」が出版されました。

本書は日本ヘルスケア歯科学会のフォーラム EBM ヘルスケアのメンバーで、私たち若手の希望の星である寺岡徳光さんと、日本大学歯学部歯周病学講座専任講師の蓮池 聡先生による共著です。今までの日本の歯科医療、歯科業界は先輩方の経験的な要素、縦社会の人間関係が大きく影響を与えており、そのため経験

の少ない若手はどうしても、身近な先輩や講演会で講師の言ったことを鵜呑みにする、従うしかありませんでした。もちろんそれらもとても大切な場合はあるとは思いますが。

しかし、インターネットや書籍が普及し、情報が簡単に手に入るようになった現在だからこそ、若手は先輩や講師の経験からの医療だけでなく、可能な限り正しくエビデンスを活用し臨床でEBMを実践する必要があると考えています。また寺岡さんが論文抄読を行うきっかけになった「講師の話は本当か？」という疑問は、私自身もとても共感しました。以前、ある勉強会で講師が引用していた論文が気になり調べて読んでみたら、まったく違う内容だったという経験をしています。

そんな経験から自ら論文を読んで勉強する、批判的吟味する、ということはとても大切だと感じました。とはいえ、いきなり論文を読むのはハードルが高い、どうやって読めばよいかかわからないと思う方も多いかと思います。この本はそんな方々の疑問や不安にこたえてくれる良



著です。また研究の種類ごとに読むべき要点をまとめられているので、私自身は実際、論文抄読する前にその単元を読んでから抄読をするようにして活用しております。

これから論文を読み始めようと考えている歯科医師や歯科衛生士の皆さんにとって、はじめの一步を踏み出すには最良の書となっていると思います。ぜひ一度、手にとって読んでみてください！！そして臨床の疑問を一緒に解決していきましょう！（吉武 秀・川崎市開業）



### オンライン サロン 紹介

○ 2024年1月9日（火）20:30～

寺岡徳光の GREAT EBM CLUB powered by EBM HEALTH CARE

新年一発目のオンラインサロンを今年も担当させていただきます。

臨床上の疑問が浮かんだとき、皆さんはどう解決していますか？ 書籍やセミナー受講、知人に相談、グーグル先生、最近では ChatGPT に聞いてみる人もいますよね。今回は無料で手早く臨床上の疑問に立ち向かう方法として、PubMed というインターネットコンテンツを利用しながら、みんなであだこうだ楽しく喧嘩譁する時間にしたいと思っています。「こんなこと知ってみたい！」という臨床の疑問をぜひぜひ当日ご持参ください。最初に座学もちよこっと入れますので、EBM 初学者の参加も大歓迎です。ラジオ感覚でのご参加も大歓迎です。

時間があれば、最近の私の EBM に関する学びのトレンドもお話したいと思います。（寺岡徳光）

## SNS/YouTube で情報発信中！

学会 web サイトの更新情報（セミナー・イベント情報）をほぼ随時発信中！ 医院のスタッフの方もどなたでも登録 OK！  
\*会員限定のメールマガジンも不定期配信中！ 事務局までメールアドレスを登録してください。



セミナー  
紹介

受付開始  
1月予定

## オピニオンメンバー会議併催

ヘルスケア・スプリングセミナー 2024

「う蝕活性試験：CAT21 テストの開発から臨床応用 —これからの展望」

2024年3月10日(日) 13:30~16:00 AP 浜松町(東京) RoomC & Zoom ウェビナー



講師：下野 勉（岡山大学名誉教授 元岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 行動小児歯科学分野教授）

参加対象者：会員および会員診療所スタッフ

参加費：オピニオンメンバー 無料（要登録）

会員歯科医師 5,000 円／会員スタッフ 2,000 円／非会員スタッフ 3,000 円

※オンライン同額

定員：会場 100 名 オンライン 100 名



### 【企画趣旨】

2023年8月31日、口腔衛生学会から「乳幼児期における親との食器の共有について」というステートメントが出されました。そこでは、食器の共有をしないことでう蝕を予防できるということの科学的根拠が必ずしも強いものではないことが示されています。

みなさまご承知のように、う蝕は多因子性の疾患であり、プラークのう蝕病原性は特定の細菌によって決まる（特異細菌仮説）のではなく、細菌叢の偏り（生態学的プラーク仮説）によって生じると考えられています。当ヘルスケア歯科学会では変化するカリエスリスクを的確に把握するために繰り返しリスクアセスメントを行うことが必要と考えています。そのためチェアサイドで簡便に行うことができる CRASP の利用を推奨してきました。CAT21 テストはプラークの酸産生能を調べる簡便な方法として CRASP に採用されています。今回のセミナーでは CAT21 テストを開発された下野勉先生をお招きして講演いただき、みなさまとディスカッションを通してさらに理解を深める機会にしたいと思います。（高澤淳仁）

### 抄録 「う蝕活性試験：CAT21 テストの開発から臨床応用 —これからの展望」

新型コロナの蔓延防止から、未だに完全に脱却できてない昨今の状況からも分かるように、病因が作用し、個体の反応が生じ、発病し、機能不全に陥って死に至る、という疾病の進行過程において、いかに早く病気の診断が下る前に行われる第一次予防を徹底できるかが重要である。1980年にWHOから出された「天然痘撲滅宣言」や、世界中で、今まさに展開されている新型コロナウイルス COVID-19 に対するワクチン開発競争に見られるように、伝染病に対する第一次レベルで行われる特異予防の発達は目覚ましいものがある。

1796年イギリスの医師 Edward Jenner が James Philips 少年の腕に初めて牛痘の膿を接種して、免疫の成立を確認し、種痘法を発見したことは、あまりにも有名である。しかし、彼はこの発見に先立って、古くから天然痘患者からの膿を接種する人痘法がアジア、ヨーロッパの各地で生活の知恵として伝えられていたことを知っていた。Jenner はこのような〈温故知新〉の知恵や観念的な考え方に科学的な技術や方法論を導入して種痘ワクチンを完成した。

う蝕症においては Newburn の4つの輪（菌・微生物・食物・時間）に社会環境要因を加えた Fejerskov の輪が最新のう蝕病因論とされているが、臨床応用に際してこれらの原因を分析し取り除くための方法論はあまりにも複雑である。

本講演では4つの輪に社会的要因が重なった結果、歯の表面に形成された菌垢の持つ潜在的アタックパワーを簡便に測定することを目的として開発されたカリエスタット（CAT21）について、演者が1983年に提唱したアタック・デイフェンスパワーバランス説をベースにして行動小児歯科学の観点から、その臨床応用と今後の展望について述べてみたい。

#### 【略歴】

1970	大阪大学歯学部卒業	2010	岡山大学名誉教授
1977	大阪大学歯学部小児歯科学講座助教授	2013.10	一般社団法人アジア健康福祉交流支援機構 代表理事～現在に至る
1984	岡山大学歯学部小児歯科教授		
1990-2010.3	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科教授		

寄稿 スプリングセミナーに寄せて

## カリオスタット (CARIOSTAT) 開発への道

下野 勉 (岡山大学名誉教授 元岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 行動小児歯科学分野教授)

それは1973年8月15日のことだった。3ヵ月間もかけて調整した抗BCG血清が腐っているのを発見した。この年の7月、大阪大学歯学部にて待望の小児歯科学講座が新設された。講座第一号の文部教官助手に任官したばかりの私は、朝から夕方まで洪水のように押しかける小児患者の診療や学生の臨床実習に多忙を極めていた。

夜になるとゴキブリの如く、細菌学教室へ出かけて、深夜まで結核菌 (BCG) の研究に没頭していた。

1970年4月、同期の岡本 誠氏 (初代全国小児歯科開業医会会長) とともに小児歯科専門医を目指して大学に残ったが、当時小児歯科学講座は存在せず、診療室だけで研究室も医局もなかった。そこで岡本氏は理工学講座へ、そして私は学生時代から出入りしていた細菌学講座へ研究の場を求めた。当然、小児歯科で最も大きな問題であったむし歯の原因菌の研究を希望したが、講座主任の小谷尚三教授の「下野君、むし歯菌もええけど、結核菌の研究は、もっと面白いで、結核菌は培養が難しいけど、学位をとるまで頑張ったら、将来何にでも役に立つで」のひと声でゴキブリ生活が始まったわけである。

石の上にも三年、やっと研究が軌道に乗りかけた矢先の失敗が冒頭に述べたとおりである。教科書どおりに防腐剤を入れたのに、なぜ血清が腐ったのだらうかと思い、腐った抗血清から菌の分離を試みた。すると連鎖球菌のみが見つかった。つまり、この防腐剤は使用濃度によっては連鎖球菌の選択培地に使えることが分かった。昼はむし歯の洪水と格闘しながら夜は結核菌に振り回されていた私に、むし歯菌の研究への憧れがよみがえった。これがきっかけでカリオスタットの研究が始まったわけである。爾来、毎日三つの仕事を同時進行することとなった。

すなわち一番目は昼間の子どもも私も汗みどろになって歯を削る、つめる、かぶせる、抜く、の歯科医としての肉体労働と学生教育、そして二番目の夕方から夜にかけての目に見えぬ結核菌を相手に、その細胞構築成分を分画し、免疫学的性状を調べて、免疫強化物質が細胞壁に局在すること、さらに、細胞壁に存在する蛋白が、肺結核における空洞形成の原因になっていること、などを解明する頭脳労働、さらに三番目の夜から深夜に及ぶ、新しい蝕活性試験法の開発に関する研究の毎日であった。

これら三つの研究は一見、何の関連もないように見えるが実は結核菌の研究で用いた合成培地の成分や冒頭に述べた血清防腐剤の失敗から得たヒント、そして、小谷教授の「便所紙にも

ならない論文を書くな」の一言はカリオスタット開発のコンセプトに大きく影響を与えた、さらに昼間の肉体労働は前夜に試作した蝕活性試験液の絶好の臨床テストの場となったばかりでなく、外科的歯科から内科的歯科への転換の必要性を、身をもって体験し、さらなる研究への使命感を私に与えた。

さて、カリオスタット (CARIOSTAT) の呼び名はCario—むし歯、Status—状態、の二つの言葉をくっつけて「むし歯の状態を知る手段」と言う意味で私が作った和製英語である。45年間のロングセラーを続けたカリオスタットは蔗糖、防腐剤、蛋白、pH指示薬、食塩をさまざまな濃度に組み合わせて試作した30種類以上の試作品の中からもっとも臨床的必要条件を具備した20番目に作成したものである。

これらの過程で意識したのは安全、簡単、安価、安定性、そして臨床評価と歯科医院や保健所、学校などでの教育や疫学研究に使えることであった。

しかし、これらの研究において最も意識したことは科学性の追求と臨床教育への応用のギャップであった。その一例はむし歯のない人の判定をどうするかである。科学的には陰性 (マイナス, -) とすべきであろうが臨床的には、口腔衛生指導が必要なケースもある、そのモデルとして協力してもらったのが冒頭に紹介した岡本氏であった。彼は甘党から辛党まで両方をこなし、それほどブラッシングもしてないのにむし歯がなかった。CAT値マイナスにするのは、臨床教育上あまり好ましくないとの判断で、彼の値を (+) にして警告を与え、口腔衛生習慣の改善を指摘する必要があるのではないかと、との単純な発想でpH指示薬の発色の調整 (青-pH7.2, 緑+pH5.4, 黄緑++ pH4.7, 黄色+++ pH4.0) を行った。結果的にはこの値はちょうどエナメル質の臨界脱灰pH5.4に一致した。

このような研究、開発過程で商品化の協力を申し出てくれたのが当時三金工業の研究所所長、甲村 保氏 (大阪大学発酵工学部出身) であった。同行した神尾哲郎会長の「今まで三金工業は壊れた歯を修繕して儲けさせていただきました、むし歯で泣いている子どものためにも今後企業の社会的使命として歯を壊さない歯科医療に貢献しなければならないと考えています」の一言に心を動かされ協力依頼に賛同した。

研究開始から7年を経ていよいよ商品化されたカリオスタット (HS-1, 大阪大学小児歯科) は長期保存中の変色や液漏れ、蒸発などさまざまな問題が生じたが、容器や試験液製造方法の改良を重ね、膨大な臨床データを参考にして、より安定性のあ

る材料の完成を見た。商品化された後、健康保険にも採用され  
 カリオスタットの知名度が上がるにつれ、さまざまな類似品が  
 市場に出回ったが、その寿命は数年から十年程度と短命なもの  
 が多かった。あるとき、口腔細菌学者のワークショップの席上  
 で細菌学的に何を見ているのか判らない、いい加減なものが市  
 場に出回っているのかがなものかと発言した高名な学者がお  
 られたそうであるが、そのとき「味噌くそ一緒に見ているところ  
 に意味があるかもしれない、発明者は臨床家であるが細菌学  
 の基礎知識も十分持っているので案外使えるかもしれない」と  
 その発言を切り返してくれたのが、わが恩師、小谷尚三教授で  
 あったことを後になって聞かされた。つまり、小谷教授は、私  
 が師匠の目を盗んで真夜中に進めていたカリオスタットの研究  
 を、お見通しであったのである。余計なことをする間があった  
 ら、早く学位研究の結果を出せ、といわれることを恐れていた  
 私は、小谷教授の寛大な心に今も感謝している。

その5年後、岡山大学へ赴任する直前の1983年、アメリカ合  
 衆国シアトルにある州立ワシントン大学で研究する機会に恵ま  
 れ、カリオスタットを持ち込み、直ちに大学の小児歯科外来で  
 臨床研究を開始した。その後、カスケード山脈を超えてワシ  
 ントン林檎の産地として有名なウナチで小児歯科専門医プリービ  
 先生の診療室で3ヵ月にわたって診療室でデータ収集を行った。  
 当時すでにアメリカの小児歯科医は予防、定期管理を軸にした  
 小児歯科を実践していたため、私の研究の目的を簡単に理解し  
 てくれた、その時に取材された地元の新聞記事は「今までのよ

うな穴を掘って行いう歯科治療は古い、下野の開発したカリオス  
 タットはアメリカにおける新しい歯科医療の展開を促進するで  
 あろう」と評価してくれた。

岡山大学へ赴任後も更なる研究をつづけ、カリオスタットが  
 集団や個人におけるむし歯の発生や増悪の予測に使える理由が  
 ミュータンス、ソプライナス、ラクトバチルスの消長を的確に  
 捉えていることが解明され、さらに歯の隣接面の部位別診断に  
 使えること、アンケートと組みあわせることにより、むし歯発  
 生にかかわる食習慣、養育環境などに起因するリスク行動の抽  
 出に使えることなどを1990年スウェーデンのクールスタットで  
 開催された第二回世界予防歯科会議で発表した。その際インバ  
 クトを与えるために出席者の歯垢を採取してデモンストレーシ  
 ョンをしようとしたがインキュベータがない、そこでとっさの  
 思いつきで、カリオスタットのアンプルを、腹巻に巻いて暖め、  
 会議の最終日にその結果を提示して、アクセルソン、ブラッター  
 ール氏らを説得したのが昨日のここのように思い出される。

カリオスタット研究を通じて、学位論文を完成し母校で頑張  
 っているインドネシア、バングラデシュ、フィリピン、台湾、  
 中国、ブラジル、アルゼンチン、モンゴルなどの多くの留学生  
 たちにより、ブルーの液体の入った一本のアンプルに秘められ  
 た私の小児歯科医療のコンセプトが継承され、将来、発展途上  
 国の子どもがむし歯の洪水から守られるきっかけになれば望外  
 の喜びである。



新  
入  
会  
音  
信

2023年度の新入会者数

	2022年			2023年									合計
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
歯科医師	2	0	0	2	1	5	4	4	1	3	4	0	26
歯科衛生士	4	0	1	4	4	1	5	11	7	8	6	2	53
歯科技工士	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他	1	1	1	0	0	1	2	1	1	0	2	2	12
法人	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2
合計	7	1	3	6	5	7	12	16	9	11	12	5	94

新入会者紹介

伊藤将吾 (歯科医師)

痛いところだけを治療して終わり。その様な診療に疑問を  
 持ち、継続的に患者さんを管理できるツールはないかと探し  
 ていた際にCRASPに出会いました。そこから日本ヘルスケ  
 ア歯科学会様の理念・活動に共感し、今回入会させていただ  
 きたいと思いました。

豊田優夏 (歯科衛生士)

いろいろな情報や知識を身につけ、一人でも多くの患者さ  
 んに満足して帰っていただきたいと思い入会させていただきました。

新入会 法人会員

株式会社 soeasy (東京・千代田区)

事業内容：お役立ち15秒動画コミュニティ“soeasy”，簡単  
 に作れてすぐに現場で共有できる、スマホ動画マニ  
 ュアルツール“soeasy buddy”

株式会社 FOD (高松市)

事業内容：ペリオナビの開発・販売、ペリオ分野のセミナー・  
 イベント企画運営、歯周病関連検査機器・IT製品の  
 販売





## 連載 13

## フォーラム

## フォーラム

## 【ヘルスケアと赤ちゃん歯科】 ウェル baby イング

鮫島友美 (医療法人社団 Compassion 宇田川歯科医院)



会員サイト内：[赤ちゃん歯科ブログ]

「赤ちゃん歯科」を学ぶようになったのは、2年近く前になります。院長は前から赤ちゃん歯科を取り入れたいと思っていたようで、わたなべ歯科のスタッフの方に教えていただける機会があり、赤ちゃん歯科を学んでみないかと声をかけてもらいました。私自身3人の子育て中で、育児書やSNSはいろいろな考えの方がいて、そのなかから自分で選択することが難しいと思い、あまり見ていませんでした。実際、子どもにはアレルギーや口呼吸、過蓋咬合など気になることがたくさんあり、もしかしたら赤ちゃんのときからできたことがあったのでは？ と思い、赤ちゃん歯科のスタッフとなり、わたなべ歯科の仲井真縁さんに講師として数ヶ月来ていただき赤ちゃん歯科の基礎を学びました。

まったく歯科衛生士学校では学んでいない内容ばかりで、すごく新鮮でした。たとえば口呼吸の原因も抱っこや授乳姿勢など生まれてからの問題だけでなく、お腹にいたときの姿勢も関係していることもあり、個々でもまったく違います。普段から



聞き取りをしているむし歯や歯周病の原因を探っていくより、かなり広い視野で診ていくことが必要なのと、どこどう結びつくのかまだまだ分からず、難しさを感じています。私たちにたくさんの引き出しがあれば、いろいろな方向からお話を聞いて一緒に考え、アドバイスすることができる

と思います。そのためにも現在は赤ちゃん歯科スタディグループのウェル勉や、最近ではヘルスケア歯科学会のフォーラム「ヘルスケアと赤ちゃん歯科」に参加しています。

赤ちゃん歯科を実践することで、口腔育成だけでなく健康な心身や自立心など、親として自分の子にこんな風に育ってほしいなあと思うことが網羅されていることに、私は魅力を感じています。しかし、一般的に当たり前とされている首座りの段階や、離乳食の形態など違うことが多いため、一般の方にはなかなか受け入れづらい点もあるのかなあと感じています。

そんななか、医院で赤ちゃん歯科を始めて1年以上経ちます。赤ちゃん歯科を集団相談会でスタートされている医院が多いなか、コロナ禍でもあり個人を対象として地道な声掛けでスタートしました。最初の頃は、妊婦健診の方や2歳児以下の方に声掛けやチラシをお渡ししていましたが、赤ちゃん歯科のスタッフですら、親御さんがぜひ聞きたい！ と思うような「赤ちゃん歯科」の紹介ができず、希望する方がなかなか増えません。

最近では対象年齢を引き上げ、初診の未就学児の予約には、1回目か2回目に赤ちゃん歯科の予約を必ず取るようにしました。まだ変更したばかりなので変化はありませんが、健診で赤ちゃん歯科の観点から気付くことアドバイスできることがあると思います。地道に続けていき、この先「赤ちゃん歯科」の内容が宇田川歯科医院の小児歯科の基盤になるよう努めていきたいと思っています。

私もまだまだ初心者です。ぜひ一緒に赤ちゃん歯科を学びませんか？

★月1回21時からZoomミーティングを行っております。興味のある方はぜひ1度参加してみてください！お待ちしております。



## オピニオンメンバー会議 (第7期 第3回)

2024年3月10日(日) 10:00～

AP 浜松町(東京)とZoom オンライン

今後の予定 1月末頃 お知らせと出欠ハガキの送付

## ☆ 併催 スプリングセミナー 13:30～

講演テーマ

う蝕活性試験：CAT21 テストの開発から臨床応用  
—これからの展望

講師：下野 勉 (岡山大学名誉教授)

## 第22回 国際外傷歯学会世界大会を 後援します



2023年5月に日本ヘルスケア歯科学会でも講演（Web）をしていただいた、泉英之さん（会員・長浜市開業）を大会長とした第22回国際外傷歯学会世界大会が2024年7月12～15日の期間で開催されます。日本ヘルスケア歯科学会として、今大会を後援しています。それにより、ヘルスケア歯科学会会員は、外傷歯学会の会員価格で参加することが可能になりました。日本で開催される貴重な機会です。皆さんぜひ一緒に勉強にいきましょう。当学会からも、杉山精一副代表をはじめ、会員の方が講演する予定です。（代表理事：高橋 啓）

【会 期】2024年7月12日（金）～15日（月祝）

【会 場】一橋大学一橋講堂（学術総合センター）

【公式サイト】[https://smartconf.jp/content/wcdt2024\\_jp](https://smartconf.jp/content/wcdt2024_jp)

【情報サイト】<https://wcdt2024.themedia.jp/>

団体申し込み締切り：2024年1月24日まで

対 象：日本ヘルスケア歯科学会 会員 歯科医師

団体割引費用につきましては、参加登録費を国際外傷歯学会会員価格（IADT 会員）早期料金 28,000 円でお申し込みいただけます。

参加費用の詳細については以下のページをご確認ください。

[https://smartconf.jp/content/wcdt2024\\_jp/registration](https://smartconf.jp/content/wcdt2024_jp/registration)

- ・ テーブルクリニック等その他の参加登録費は別途お申し込みが必要になります。
- ・ 歯科衛生士・歯科助手・歯科技工士・学生・大学院生は会員価格がありませんので、通常登録費のみとなります。

お申込みは学会ホームページ、  
または右の QR コードから



## Healthcare bibliography

ヘルスケア歯科学会会員の  
執筆掲載雑誌・書籍を報告!

報告：大井孝友

### 雑誌掲載

ゼロからわかる むし歯の予防&治療

伊藤 中他

File 4 徹底図解！むし歯の進行&治療

nico 10月号 p.24-29 クインテッセンス出版

File 5 フッ素（フッ化物）の3つのはたらき

nico 11月号 p.22-25 クインテッセンス出版

教えて！歯医者さんQ & A

部分入れ歯がお口に合わない…

吉備政仁

nico 10月号 p.36-37 クインテッセンス出版

前歯が突然落ちてきた。私に笑顔に戻るまで

高橋 啓（ペンネーム：坂本慎太郎）

第22話 心筋梗塞が発覚！

nico 10月号 p.49-51 クインテッセンス出版

第23話 やっぱ健康は大事だ！

nico 11月号 p.47-49 クインテッセンス出版

予防の常識・非常識

藤本省三

nico 11月号 p.60-61 クインテッセンス出版

ポジション・レスト・ストローク

こんなにある！SRPのバリエーション

落合真理子

歯科衛生士 10月号 p.30-42 クインテッセンス社

トータルトリートメントコンセプト

歯科診療哲学に基づいた包括的診療システム

高山祐輔

デンタルダイヤモンド 10月号 p.23-45 デンタルダイヤモンド社

〇〇で悩む先生に伝えたい自由診療の幸福論

ようこそ自由診療の世界へ

高山祐輔 他

デンタルダイヤモンド 11月号 p.116-119 デンタルダイヤモンド社

禁煙支援のネタ帳②

禁煙のきっかけを作る

森谷良行

DHstyle 10月号 p.48-51 デンタルダイヤモンド社

禁煙支援のネタ帳③

患者さんに寄り添いながら、禁煙のチャンス待っ

蓮見愛

DHstyle 11月号 p.84-85 デンタルダイヤモンド社

魂のハイジーンワーク

奥山洋実

「キュレットを持たない歯科衛生士」にならないで

DHstyle 10月号 p.87-89 デンタルダイヤモンド社

その目は患者さんの健康に向けられていますか

DHstyle 11月号 p.86-88 デンタルダイヤモンド社



25年以上ヘルスケア歯科診療を続けてきて、わかったこと、思うこと



藤木省三（神戸市開業）

5) サブカルテを読む

臨床の質を上げるためには、口腔内写真とデンタルエックス線写真を活用することが不可欠です。もう一つはサブカルテの活用です。一言で言えば、「毎日すべてのサブカルテを読む」ということになりませんが、そう簡単なことではありません。

まず、なぜサブカルテを書くのか、その意味を理解しておかないと「言われたから書く」という受け身になってしまいます。忙しくても書いておかないと自分のためにならないから書く、その理由が大切です。

理由の一つは患者の緻密な記録を残しておくことでしょう。当日の様々な状況、指導の内容、処置の内容を残しておくことで、次の診療にも有効でしょう。何か問題が起こったときに、5年前、10年前の記録が役立つこともあります。

サブカルテを書き、記録を残す習慣は、歯科衛生士自身か何に注意を向けているのかが明確になります。毎日書いているうちにメンテナンスで何が重要かがはっきりしてきます。

サブカルテは、歯科医院内の情報共有にも役立ちます。患者の情報を担当歯科衛生士のみが知るだけでなく、院長、受付、歯科助手全員が見ることができるようになります。また、サブカルテをコミュニケーションツールとしても使えます。忙しくて院長に聞けないときも、サブカルテに迷ったこと、質問や疑問などを書くことで返答をもらうことができます（院長がすべてのサブカルテを読んでいるという前提ですが）。「書かされているから書く」のではなく、「毎日の診療に役立つから書く」という気持ちが必要です。

次に、「サブカルテを書こう！」となれば、内容や書式を決める必要があります。あまり簡単すぎると役には立たないし、かといってただただ書けば時間がかかって診療に悪影響を及ぼします。必要なことを過不足なく書くのには書式を決めておくのがよいと思います。書くのには慣れが必要なので、新しく入った人には多少時間を余分に与えてあげる配慮も必要かもしれません。

一番の問題は、「いつ書くか？」です。当院では診療時間中の診療やアシストについていない時間を作って書くようにしていますが、それでも昼休みに書くことも多いです。歯科衛生士の人数に余裕があれば診療時間中に書く時間を作りやすいですが、歯科衛生士の確保が難しいこともあります。これもみんなで知恵を出し合って解決しなければなりません。

口腔内写真と同じで、苦勞して書いても読まなければ意味がありません。私は岡賢二さんからすべてのサブカルテを読むことを教わりました。その結果、患者の状況を背景を含めて理解できるようになりました。疾患の状態だけでなく、患者の性格や生活環境も伝わってきます。「人」としての患者を知ることができます。

もちろん、治療中の様々な様子もわかります。サブカルテを読む際には、口腔内写真やデンタル、プロービングチャートも一緒に見て状況を把握します。それを繰り返すことで、自分の歯科医院でできていること、不足していることがよく

ウィステリア Pro 6 のサブカルテ  
 歯科衛生士：コメントの書き込み→院長：チェック  
 過去の記入も一覧表示で確認できる。

わかります。多くのケースを満遍なく見ることで疾患の全体像が見えてくることもあります。

すべてに目を通してしていると、歯科衛生士の指導の様子もよくわかります。うまくいって効果が出れば一緒に喜び、行き詰まっていることがあればコメントを書くこともあります。過去の経験をフィードバックさせることができるのです。

今の私は、3年前の病気の後からは食事の量と時間を上手に管理しなければならなくなって、心残りではあります

てのサブカルテを見ることができなくなっています（新人と必要と思われるサブカルテはもちろん読んでいます）。体調が戻ればまたすべてのサブカルテのチェックを行いたいと思っています。

このように、サブカルテがあるからこそわかることがたくさんあります。いくつも壁を越えなければなりません。臨床の質を上げるためにはサブカルテの活用が不可欠です。



## [PerioPad] と [電子サブカルテシステム] 紹介



森 一弘（学会認定ウイステリアサポート技術者 アクセス代表）

### ☆ アクセス

〒 842-0033

佐賀県神埼郡吉野ヶ里町豆田 2103-13

TEL. 0952-51-1776 ・ FAX. 0952-51-1767

携帯 090-1920-7894

URL <https://www.access-dental.jp/>

URL <http://www.access-pcdoc.jp>

E-mail [kazu@access-pcdoc.com](mailto:kazu@access-pcdoc.com)

前回、「歯周検査入力アプリ [PerioPad] 無料配布のお知らせ！」をさせていただきました。

さっそくお使いいただいたユーザーの方々から頂戴したご要望を踏まえて、初回バージョンアップの準備中です。

まず、一つ目に、患者名簿の一括取り込み機能です。各診療所のレセコンには開業時からの患者基本情報があります。そのデータを取り込んで大量の患者名簿入力作業を省く機能です。

二つ目に、抜歯履歴登録機能です。抜歯の日付とその理由について登録することができるようにします。

三つ目に、来院履歴登録機能です。現在は歯周検査をしたときのみ、その検

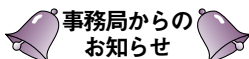
査日が登録されますが、検査をしなかった日でも、来院目的（治療目的、メンテナンス目的など）の登録、そして、歯式歯列の更新を行い、残存歯、DMFT、dft の記録を残すこともできるようにします。

ほかにも、PerioPad に蓄積されたデータから、様々な集計が簡単にできる集計専用の [PerioPadAnalyzer] もリリース予定です。

PerioPad のダウンロードや、使い方マニュアル、その他 PerioPad に関する情報は、専用 Web サイト (<http://periopad.com>) にて発信しておりますので、随時ご確認よろしくお願いいたします。

また別の新たな商品として、[電子サブカルテシステム (仮称)] も近日中に

リリース予定です。診療所のペーパーレス化推進の声は、いたるところでお聞きます。そのご要望に応えるものとして、iPad に ApplePencil で手書きして保存ができて、ウイステリアや PerioPad と連携して使える電子サブカルテシステムとなっております。院長がサブカルテ確認チェックを入れる機能もそなえます。目的のサブカルテへのアクセスもストレスのないスムーズなアクセスができ、過去のサブカルテもページをめくる感覚で開けます。デモ動画を PerioPad の Web サイトで公開していますので、そちらもご確認お願いいたします。



事務局からの  
お知らせ

## ウイステリア Pro ver.6.0.2 アップデータ版について

2021年に頒布開始しました〈ウイステリア Pro ver.6.0〉は、Mac版での画像表示・共有ができませんでした。2023年1月にその修正を完了し〈ウイステリア Pro ver.6.0.1〉として頒布しました。

さらに、その他のバグ等を修正し〈ver.6.0.2〉アップデータ版が現在頒布されています。

〈ver.6.0〉または〈6.0.1〉をご購入された方は、〈ver.6.0.2〉に無料でアップデートできます。差し替えを希望される方は、事

務局までお問い合わせください。

なお、差し替えるウイステリア等のファイルには、現在使用中のデータをインポートする必要があります。

ご使用中のウイステリア Pro の詳細バージョンは、「ウイステリアについて」の画面をご確認ください（メニュー画面「患者情報データベース」の文字をクリックすると切り替わります。メニュー画面へ戻る場合も同じ）。



マー君の

enjoy my life

2020年2月末(65歳)で開業38年目の河野歯科を廃業して、毎日が日曜日の生活を過ごしています。なかなかいいもんですよ。

by 河野正清



Justin先生と最後のレッスン

## Vol.10 フィリピンで英語漬け3週間

2023年9月20日から3週間、フィリピンの英会話学校に留学してきました。家族連れですべて個人手配で海外旅行に行き、多少のトラブルでも自力で解決して無事に帰国するくらいの英語力はあるのですが、もうちょっとマシなレベルになりたいな、と思い密かに計画していました。いろいろと調べた結果、マニラから車で1時間のケソン市にある English Breakthrough に留学しました。留学前に日本人の学長との Web 面接があり、私の英語力をテストされて先生やレッスン内容のアレンジをしていただきました。

7時朝食、8時から2時間のマンツーマンレッスンを2回、12時昼食、13時

から2時間レッスン、19時夕食と毎日6時間のマンツーマンレッスンでした。おまけに学校内では日本語禁止!なので英語漬けの毎日でした。行くまでは6時間のマンツーマンレッスンを3週間も受けたら発狂するんじゃないか?とも思いましたが無事に終了、帰国できました。3食付きなので食事の心配もなく、まあ美味しく毎日食べてました。

それでどうなったの?ペラペラになったの?答えは全然です、そんなに甘いものではありませんでした。まあ、行く前よりは少しマシにはなったかな。学長が言うには、完全に英語を使いこなすには6ヵ月の留学が必要だそうです。

たったの3週間でしたが3人の先生に毎日レッスンを受けて、テキスト学習だけではなく個人的な会話もたくさんしたので、とても楽しく過ごすことができました。写真は Justin 先生が最後のレッスン時にお祝いしてくれた時のものです。ブログに詳しく載せていますので興味のある方は QR コードからご覧ください。行ける機会があったらまた行きたいな、と思っています。皆さんもいつかそんな経験をしてみては、いかがですか?

オンライン  
サロン  
紹介

○ 2024年2月13日(火)・4月9日(火) 20:30～

チェアを増やすにあたり、診療の質を落とさずにやり切るための工夫 第2弾(全3回)

ヘルスケア診療に取り組んでいると、増えるメンテナンス患者さん、口コミも広がり増患、そして増員。一見よい循環ではありますが、院長はスタッフマネジメントに追われるようになり、診療に対する時間と質の担保に悩む方も多いと思います。当院では平成16年の開業時、ユニット4台歯科衛生士(以下DH)3名からスタートし、現在はユニット10台DH9名と成長してきました。

自分が歯周病専門医ということもありますが、現在まで当院から歯周病学会認定歯科衛生士(以下認定DH)7名が合格することができました。現在でも5名が活躍してくれています。

認定DHを取得するためには写真撮影、検査やSRPなど技術研鑽、患者さんとのコミュニケーションの場や全顎デンタルエックス線撮影など診療の質を担保する環境も必要になってきます。

規模拡大という「効率化」と、質の担保という「手間がかかる部分」の両立の壁に皆さんもぶつかっていることと思います。その壁をどのようにして乗り越えてきたかご質問をいただくことがよくあります。自分も今も日々いろいろな壁にぶつかりながら前進しています。今回、自分の経験の範囲ではありますが、ゆいどびあ歯科医院での取り組みをご紹介させていただきつつ、皆さんと楽しくディスカッションできたらと思います。(藤本 淳)

## ②院内マネジメントについて(2月13日)

患者さんが増加するとともに、医院規模が大きくなっていきます。規模拡大してもチームワーク良好な医院づくり、仕組みが回る医院づくり、効率的な医院づくりなどを目指し、当診療所が取り組んでいる事例について紹介します。

## ③ヘルスケア診療とマーケティングについて(4月9日)

ヘルスケア診療を行った結果を分析し、次の戦略を立てるために数値管理が大切になっていきます。当診療所が、その数値から考え、行っている取り組みについて紹介します。また付加価値として取り組んでいる仕組みについてもお話しする予定です。

※①「診療の質を維持向上するために」は12月12日に開催済み

# ウェビナー報告

新オンラインサロン 2023年10月～12月

## 新 ヘルスケアオンラインサロン

**2023年10月10日(火)20:30～ 運営：古市  
小児歯科部会(小児歯科フォーラム)発足！  
集まれ子ども大好き医療従事者！！**



10月は新しく発足した小児歯科部会（正式名：小児歯科フォーラム）の紹介とメンバー募集を兼ねたオンラインサロンを「小児歯科部会発足！集まれ子ども大好き医療従事者！！」と題して催した。

小児歯科フォーラムは、今年の認証診療所試験（認証ミーティング）を合格された田野友美さん（堺市）と久米 徹さん（神戸市）が認証プレゼンで熱く語っていた小児歯科へのこだわりをヘルスケア診療のなかで具体的なかたちにするために曾野偉謙さん（神戸市）が尽力して発足したもの。

本会の設立趣旨にある「人々が生涯にわたって快適な咀嚼と自由な会話と若さと尊厳に満ちた微笑みを維持することができるように」するために、乳歯列期・混合歯列期からヘルスケア診療を患者に実践する事を目的としている。

現在活動している「赤ちゃん歯科」や「学校歯科」との整合性をとり、分けをする事なく、患者の生涯に渡ってのリエスフリーをともに目指しているからわかりやすかった。

その後、現在所属しているメンバーたちの参加動機を聞いたが、その中でも田野さんの「リエスフリーを世界へ」に深い感銘を覚えた。フィリピンの貧困に喘ぐ島への数年にわたるボランティアを通じて、虫歯が当たり前前の社会を改善するために、島の小学校への教育、援助を行っている。8割や9割ではなく、

みんなをリエスフリーにしたいと熱く語られ、ぜひその願いに近づくためにみんなで小児歯科フォーラムを盛りあげていくべきと思った。

現在、フォーラムではミーティングを繰り返し行い、中長期的な目標を策定している。広くメンバーを募集しており、ご興味がある方は曾野さんまでご連絡いただきたいと思う。

（報告：古市貴暢・医療法人社団明恵会 古市歯科医院）

**2023年11月14日(火)20:30～ 運営：島野  
サロン・ド・ウイステリア**

11月はサロン・ド・ウイステリアと題してウイステリア開発に携わる藤木省三さん、森 一弘さん（賛助法人会員：アクセス）にお話をいただきました。

まずはウイステリアの変遷について藤木さんから、作るきっかけ、そして岡 賢二さんからの「撮影した写真が死んでいる」何とかならないか？ というお声から Ver.2 では比較写真が出せるようになり… などなどヘルスケア診療に寄り添いバージョンアップを重ね現在 Ver.6まで進化した話をききました。

ウイステリアは「臨床データの記録」から「臨床データの比較表示、集計、評価」へ、そして「ヘルスケア診療を支援するもの」へと変化している、というお話が印象的でした。

森さんからは、ウイステリア開発チームで話し合った際に出



たという、ウイステリア情報サイトのホームページについてお話いただきました。これから開設予定ということでした。とても楽しみです。

また、ネットワーク構築について藤木さんからと森さんからお話があり、詳しい内容については今後開設予定の情報サイトに期待したいと思います。

参加者とのやり取りでは、これからウイステリアを導入する際に、使っているレセコンからどこまで書き出しできるか、ウイステリア入力是谁がどのタイミングで入力しているのか、今回のオンラインサロン参加者は、ウイステリアのどの項目を使っているのかなど、いろいろ聞くことができました。

今後もウイステリアについて皆でお話できる場があればよいなと感じました。

(報告：島野圭介・島野デンタルオフィス)

院長が行うのは道しるべを示すことであり、目標を伝え続けることである。これは決してトップダウン一辺倒ではなく、スタッフなど目標をともにするみんなが自主的に動けるように導いていかないといけない。時として、患者さんと目標を共有するように伝えることも必要となる。

目標を設定するとそれを目指すために「仕組みづくり」が必要となる。院長は日々の研鑽で、自分の診療に柱を持たせ、それを徐々に増やしたり強固にしたりすることができる。スタッフにも目指すものを示す必要がある。そのためゆいといびあ歯科では、日本歯周病学会認定歯科衛生士の取得を目指すことにしている。必要な資料採得、ガイドラインなどを参考にした日々の診療の基準設定、認定試験に基づいた歯科衛生士による症例検討会など、目標設定が仕組みづくりにつながっていることがよくわかる。

最後に「自院のデータをとる」ことの重要性を語られた。現在の自院の立ち位置、状況把握を行うことで、問題点、改善点に気づく機会になる。それは院内のマネジメントに活用できる。…というところで、次回、各論2「院内のマネジメントについて」をお聞きするのが楽しみになってきた。

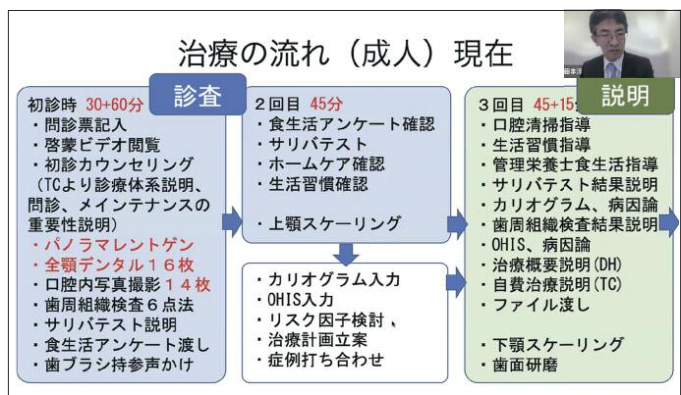
(第2回・2024年2月、第3回・2024年4月予定)

(報告：古市貴暢・医療法人社団明恵会 古市歯科医院)

**2023年12月12日(火)20:30～ 運営：古市**  
**チェアを増やすにあたり、診療の質を落とさずにやり切るための工夫(第2弾 全3回)**  
**①診療の質を維持向上するために**

12月は、藤本 淳さん(盛岡市開業)にお話いただいた。今年2月のサロンが大好評だったため、前回の濃厚な内容を3回に分け、改めてお話いただくことになった。今回は各論1として、「診療の質を維持向上するために」と題してお話いただいた。ヘルスケア診療を長年続けるにあたり、メンテナンス患者は増えるため医院の拡大を考える機会が必ず出てくる。そのときに現在の診療の質を維持することが課題となる。そのために必要なことを解説いただいた。

医院の運営、診療にあたり、まず必ず「目標設定」を行う。診療理念から一貫性を保ちつつ実践、実行をしていく。ここで



**ウェビナー告知板**

- Web セミナー
- 2024年2月21日(水) 20:00～
  - パネリスト：渡辺 勝
  - コミュニケーションセミナー：プレミートング in オンライン
  - 対象：歯科医療従事者ならどなたでも
  - 参加費：無料・要登録
  - 定員：100名

- 新オンラインサロン(無料・登録不要) 毎月第2火曜日
- 2024年1月9日(火)
    - 寺岡徳光の GREAT EBM CLUB powered by EBM HEALTH CARE
    - 寺岡徳光
  - 2024年2月13日(火)
    - チェアを増やすにあたり、診療の質を落とさずにやり切るための工夫② 院内マネジメントについて
    - 藤本 淳
  - 2024年3月12日(火)
    - 未定
  - 2024年4月9日(火)
    - チェアを増やすにあたり、診療の質を落とさずにやり切るための工夫③ ヘルスケア診療とマーケティングについて
    - 藤本 淳

## 報告 【第7期】第2回 オピニオンメンバー会議 10月15日(日) AP 浜松町会議室 & Zoom

第7期第2回のオピニオンメンバー会議が、10月15日(日)午前10時から開催された。高橋啓代表の挨拶の後、議長に齋藤健さんが選出され、議長は会場参加23名、オンライン33名計56名に欠席者の委任状24をもって成立要件を満たしていることを確認し、議事録署名人に森谷良行さんと杉山修平さんを指名した。

以下、オピニオンメンバー会議の議事を要約する。詳しい議事録は、学会ホームページを参照してください。

### 第1号議案 ヘルスケアミーティング2024 企画について

高橋さんから、来年のヘルスケアミーティングについて、日程は2024年10月13日(日)と14日(月祝)、会場は一橋大学の一橋講堂、メインテーマを歯周治療関連とし、1日目を千草隆治さん、2日目を丸山和久さんに依頼してプランニングをしている旨説明し、千草さんと丸山(和)さんが、それぞれ詳細を述べた。

#### 1日目について(千草さん)

午後半日の予定で初期・中等度の歯周治療をテーマに、改めて基本的なことから見直すことを趣旨に、以下の企画案が示された。

13日(第1日) 13:00～17:00

担当：千草隆治、田中正大、林浩司、古市貴暢、秋元秀俊

テーマ：ヘルスケア診療所における初期・中等度の歯周病治療

趣旨：ヘルスケア診療所における歯周治療は、初期・中等度の歯周病を確実に治癒させ、長期にわたって維持することを目標としている。では、ヘルスケア診療所では、実際にどのように治療とメンテナンスが行われているだろうか。設立から四半世紀を経て、改めて歯科衛生士が中心になる基本的なチーム医療を振り返り、また新たに参加した診療所、歯科衛生士にも、その価値を伝えたい。(以下略)

(以上議案書)

#### 2日目について(丸山(和)さん)

2日目は、一旦コロナ禍で流れた2020年の企画の再演で、複数の会場でたくさんの会員に登壇していただき、参加者の方は自由に聞いてくださいという趣旨とともに以下の案が示された。

①「つなぐ」その後(曾野偉隼、河野雄一郎、寺岡徳光、古市貴暢からの報告を予定)

2022年のヘルスケアミーティングの問題提起を受けて各々の診療所で、何がどう変わったか? その経過報告。(その後この案は棄却)

②ヘルスケア歯科診療所づくり

2019年のヘルスケアミーティング「全員集合」で計画(中止)されたテーマを再検討

③認証ミーティング(認証診療所公開審査会)の再現

認証を受けた診療所の、認証ミーティングのプレゼンテーション再現発表

④日本歯科医学会認定分科会登録

認定分科会として登録された場合、その報告等

日本歯科医学会からゲストを招き、講演を依頼(その後この案は棄却)

⑤UP-SRP テクニックーヘルスケア型低侵襲SRP(大西歯科で行われているSRPの実際)一紹介

⑥『ホームデンティストプロフェッショナル』(インターアクション刊)番外編

⑦その他(略)

(以上議案書)



一橋講堂の会場には、ある程度の規模の会場が複数あるので、2日目午前2コマ、午後1コマ、3会場だと9コマを想定している(その後6コマに決定)。「ぜひこの人」「こんな内容の話を聞きたい」という意見のある方は申し出て欲しい。

### 第2号議案 講演会等講師謝礼規定の改正

河野雄一郎さんから、「コロナ禍でWebセミナーが活発に行われたが、講師謝礼について曖昧な点、整合性に欠ける点が出てきたため、講演会等講師謝礼を次のように改めることを提案する」として講師謝礼規定改正についてのコアメンバー案が示された。

講演会等講師謝礼規定「3. 各種コース」の「・60分につき10,000円を目安として謝礼を支払う」「・歯科衛生士育成コースで1時間以上の講義経験者(歯科医師以外のもの)は、歯科衛生士育成コースにおける謝礼基準を準用する」を削除し、次の条項を追加する。

#### 1) Webセミナー

- ・外部講師は変更なし
- ・内部講師の場合は従量制で
- ・10人以下は、中止や延期にすることを考える
- 参加者11～20人：講師料10,000円
- 参加者21～30人：講師料20,000円
- 参加者31～40人：講師料30,000円
- 参加者41人以上：講師料40,000円
- 講師複数の場合は各講師に支払う(歯科医師と歯科衛生士が発表した場合は2人に支払う)
- 運営(サポートメンバー)は一律1回5,000円(主幹のみ)

#### 2) リアルセミナー

- ・講師料1時間20,000円
- ・サポートメンバー1日10,000円
- (参加費免除、弁当付きで日当なしなどのアレンジはOK)

#### 3) Vimeoについて

- ・Vimeoの製作にあたって作者(出演者)に講師料を支払う
- 出演料・撮影料・編集料として1編10,000円を支払う
- ・また、売上げの5%について、を印税として作者に支払う
- (以上議案書)

提案された講師謝礼規定改正案について、活発な質疑があった。

森谷さんからは、リアルセミナーの講師料について、大井孝友さんからは、Vimeoの『出演料・撮影料・編集料』について、質問があったが、事務局長の秋元は、杉山精一さんの実績に準拠した旨回答した。また、河野正清さんは「Vimeoの印税は5%となっているが、ちょっと安くはないか、今後Vimeoのオンデマンド配信コンテンツをいろんな人が作る、例えば歯科衛生士にこれを依頼する場合、この費用設定には無理がある。将来的に改定を考慮してほしい」と意見を述べた。

杉山さんは、現在、口内写真撮影について、歯科衛生士の落合真理子さん、山田美穂さん、蓮見愛さんの協力を得て制作しているが、「この実績を考慮して、見直してはどうか」と提案した。

また、関連質問として、沼澤秀之さんは、歯科衛生士育成プログラムの見習い参加者について「交通費も謝礼も出ない。若手歯科衛生士にとっては、成長のいい機会だが、医院側の負担がハードルになっている。これだと、育成側の人材育成が難しいのではないかと述べた。田中正大さんは、これを貴重な意見として、検討課題にすると答えた。(本件は、執行部が追って対応すべき課題となった)。

これに対して歯科衛生士育成コース・インストラクターの田村恵さんは、



インターン、準スタッフから費用は支給される、見習いで来てくれる方たちが必ずしもスタッフになっているわけではない。見習い参加者に謝礼を出すことについては疑問だと述べた。永年にわたって歯科衛生士育成コースを主導してきた河野（正）さんは、今は「スタッフ不足でピンチ」なので、1人でも2人でも多くのスタッフを確保したいとして、沼澤さんの意見に賛意を示した。ほか、いくつかの発言があったが、議長は、この第2号議案につきコアメンバー提案につき賛否を問い、97%の賛同で可決された。

### 第3号議案 クロスオーバー会議について

丸山（和）さんから「クロスオーバーミーティング」について以下のとおり、提案があった。

委員会・プロジェクト・フォーラム・公認団体の各チームから1名以上の代表者を選出してもらい、定期的なミーティングをWeb開催する。選出されるメンバーは一定期間固定されることが望ましい。希望するコアメンバーも参加可能として、目的をチーム間を横断した活発な意見交換と各チームの積極的な活動支援を行うこと、また学会自体の活動に積極的に関わることにする。これにより、これまで各チームに必ず1名はコアメンバーを含むことを条件としていたがこの条件を撤廃し、新たなチーム誕生を歓迎するものである。なお、このクロスオーバーミーティングの運営に伴い、オピニオンメンバー会議は定款に必要と定められた決議（定款改正、役員を選出、決算の承認など）に、その役割を絞っていくことになる。以上議案書

追加して、丸山（和）さんは、「今はまだプロジェクト・フォーラムの活動メンバーがオピニオンメンバーに偏りがちだが、今後はオピニオンメンバー以外の皆さんがどんどんチームに関わるようにしたい。そこから出た意見を会の運営に活かすようにしていきたい」と述べ、これに伴ってオピニオンメンバー会議は、会務の執行にかかわる事柄に限定されるようになるとの見通しを語った。第1回の会議を12月1日20～21時、以後、偶数月の第1金曜日の開催を提案した。

採決の結果、全員「異議なし」と回答した。

### 第5号議案 その他の報告

第4号議案と第6号議案について、関連しているので一括審議として、第5号議案の報告を先に行った。

(ア) 日本歯科医学会認定分科会への登録申請について

日本歯科医学会認定分科会の登録申請を8月に行い、結果は年明け2月ぐらいに判明する。登録の感触について尋ねられた高橋さんは「打てる手は全部打った」とした。

(イ) 学会ホームページの刷新について（サイトマップ案議案書に添付）

丸山（和）は、ホームページ刷新チームを立ち上げて検討しているとして、素案と断りながらサイトマップを紹介した。これを元にミーティングを重ねており、来年のオピニオンメンバー会議ぐらいまでに形にしたいと述べた。ご意見やアイデアのある人は、刷新チームのZoomミーティングに参加して欲しいとして、その日程を示した。

質疑では、大井さんが、このホームページ刷新のための予算について質問したのに対し、事務局長の秋元は、前回のオピニオンメンバー会議で、

予算化されている旨（2023年度予算としてホームページ刷新予算100万円が承認されている）回答した。

(ウ) 「小児歯科フォーラム」の新設など

曾野偉鍊さんは、新たに「小児歯科フォーラム」を立ち上げ、月1回のミーティングを予定していることを報告した。

これに対し、森谷さんが、「赤ちゃん歯科」との対象分野の重なりについて質した。曾野さんは、「小児歯科フォーラム」の可能性をもって回答とした。また、高橋さんは、目下複数の大学の小児歯科学教室と関わりをもっており、ぜひそうしたつながりも生かしてもらいたいと希望を述べた。

(エ) 禁煙支援プロジェクトなど

本件は、禁煙支援プロジェクトが試作した「防煙パンフレット」について、頒布品としたいという希望であれば、コア会議は否定的だが、そもそも趣旨説明がうまくコア会議に伝わっていないために混乱が生じた案件である。担当コアメンバーの渡辺勝さんが欠席のため、斉藤仁さんが、経緯を紹介し、「子どもが家にもって帰り、防煙のきっかけになるもの」を製作したという趣旨を説明した。

(オ) ウィステリアの現状と今後について

藤木省三さんから、「ウィステリア」のバージョンアップの経緯とバージョン6についての解説があった。

### 第4号議案 健康を守り育てる歯科診療所認証の更新条件の変更について

「認証更新に際してDoプロジェクト調査1データの提出はハードルが高い」という意見が多く、他方「調査1」から論文をつくる作業にも限界があるので、認証診療所更新制度を改定する提案である。

- 1) ウィステリアを使用していない医院が増加してDoプロジェクトによる更新が認証を目指す医院の障害になってきている（開院時からデータベースを導入しており、新たにウィステリアを導入することは手間と費用負担が大きい）
- 2) Doプロジェクトで集計したデータをもとに会誌に報告してきているが、論文とするには様々な問題点があり、このまま継続するべきかどうかを検討するべきである（中略）

以下の改定を実施することとした。

- 1) 今までどおり単年度更新とする
  - 2) 臨床データの提出は、A)とB)のどちらかを選択する（両方も可）
    - A) 現在の初診患者データを提出 内容は従来と同じ
    - B) 1年間の抜歯データ（抜歯理由、年齢、時期など）と1年間のメインテナンス患者状況（メインテナンス来院患者数、のべ回数、3年後・5年後メインテナンス継続率）を提出
- B)については、現在、林さんと田中さんを中心に10名ほどで、入力基準などのキャリブレーションをスタートしている。入力は、ウィステリアの単独使用（パソコン1台で運用）で、必要な項目のみを決めて入力している。院内でルールを決めることで比較的簡単に実施できることも検証済み。この方法であれば、他のデータベース（デンタルXRなど）を導入していても併用することが可能であることが実証されている。2024年1月からこの制度に移行する。（以上議案書）

杉山さんは、10年20年のデータを蓄積して、それを振り返って評価をしていくことはヘルスケア学会の幹の部分だ、ウィステリアの進化とともに、このような活動をやってほしい。臨床データから出てくる様々な問題をミーティングで議論し、大学の関係者とも共有し解決していくのがヘルスケア学会だと一層の奮起を促した。

採決の結果、全会異議なしで可決された。

### 第6号議案 認証診療所のブランディング化について

認証更新条件の改定については、第4号議案のとおりであるが、認証申請およびその更新のモチベーションとするため「健康を守り育てる診療所」のブランディング（いわゆる「認証のブランディング」）について、

オピニオンメンバーの意見を募りたい、  
 コアメンバー会議では、  
 ブランディング策のひとつとして、秋元は、個々の認証診療所が、一定の成果（定期管理成績：例；6歳からメンテナンスケアを継続した12歳児のDMFT、10年間メンテナンスケアを継続した歯周病患者のBOP陽性率、65歳からメンテナンスケアを継続した75歳者の現在歯数等々）の情報開示について、コアメンバーの賛同は得られていないとしながら提案した。この提案は、ハードルが高く実現性に乏しいことで、情報開示目標にステップを設けること、賛成する意見としては、会誌への投稿やポスター発表をもって情報公開とする案が提案されている。ブランディングの要は、認証診療所の条件を世に知らせることである。認証の更新条件の変更に伴う（認証診療所のブランディング化に関わる施策について）オピニオンメンバーのご意見を求める。  
 （以上議案書から抜粋）

秋元は、この議案はオピニオンメンバーに問題を投げかけ、意見を求めるものだとして議案提出理由を説明した。またブランディング化が求められる要因として来年に期待される日本歯科医学会の認定分科会登録に伴って原著論文が年間5編求められること、ヘルスケア学会の設立趣旨に立ち戻ればリサーチマインドをもつことは自然の成り行きであると述べた。すなわち、ドリル・フィルという大前提を捨てると、臨床判断について様々な疑問に直面するが、それに独自に答えを出していかなければならない。その臨床判断の答

えは、ヘルスケア診療の長期経過の中にある。このように臨床の疑問をベースに臨床研究をしてき、それを積み重ねていくことがヘルスケアのブランディングにもつながると構想を解説した。

オピニオンメンバーからは、沼澤さんが永く認証診療所を取得しなかった理由は、「認証診療所になるメリットがまったく感じられなかったから」と発言、ブランディングの直接の効果は、歯科衛生士さんを採用しやすくなる点にあり、現在進めている試みに触れた。

岡恒雄さんは、「フォーラム医療の質」で、この議案で提案されている内容について検討していることを紹介した。また、中本知之さんは、「入会の理由になるくらいのブランド力が認証診療所にあると学会の発展につながる」とメールにより発言した。認証診療所は…「インプラントが長期安定する」「矯正治療が長期安定する」「デンチャーが長期安定する」「治療後の長期経過を迫る」など様々な切り口でデータやケースシリーズを論文にし、それを利用して商業セミナーで活躍すれば、若い人も興味をもつだろうと議論を展開した。

執行部として丸山（和）さんは、秋元の意見は理想論だが、我々はその理想は忘れてはいけないと述べ、最近、補綴学会誌に投稿した堀坂寧介さんを筆頭著者とする補綴物のサバイバル年数に関する研究を紹介し、この議案は、リサーチマインドの持った人の自発的な活動を歓迎する提案だとまとめた。

この発言を最後に議長は、議事終了を宣言した。（文責：秋元）



# ヘルスケア フォーラム

## オピニオンメンバー会議併催 ヘルスケア・オータムセミナー 2023

2023年10月15日 AP 浜松町 & Zoom ウェビナー



久保至誠先生です。

前半はエビデンスについてでした。大間の本マグロ（科学的根拠）は、料理人（臨床技能）がいて初めておいしく食べられますが、魚が嫌いな人（患者さんの意向・価値観）に食べてもらうことはできません。EBMはエビデンスもちろんですが、エクスペリエンス、エコノミーが

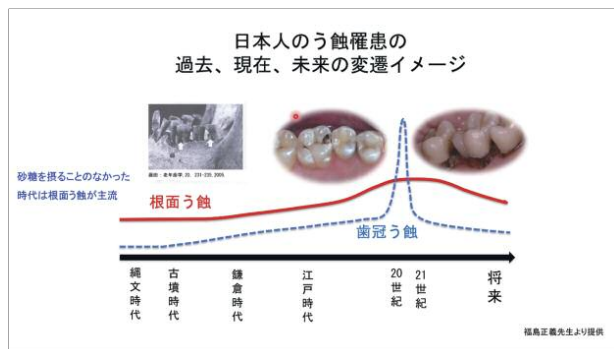
### 「MIDの理念に沿った根面う蝕の 長期マネジメント」開催報告



坪川正樹  
（高座郡寒川町開業）

ヘルスケア診療を継続している方ほど根面う蝕の発生に悩むことも多いのではないのでしょうか。そんな悩みにエビデンスで答えてくれるセミナーが開催されました。長崎大学歯学部で根面カリエスの基礎から臨床研究まで手がけられている

根面う蝕の非切削でのマネジメントにおける推奨				
	推奨(確実性:中)	提案(中)	提案(低)	推奨(中)
	CQ1	CQ2a	CQ2b	CQ3
方法	フッ化物配合歯磨剤 + 250~300 ppm F フッ化物配合洗口剤	5,000 ppm F フッ化物配合歯磨剤		38%フッ化ジアンミン塩 (サホライド®)
う蝕の回復の上乗せ効果	27/100 (18/100~38/100)	18/100 (8/100~33/100)	56/100 (32/100~94/100)	28/100 (10/100~60/100)
対象	成人	セルフケアできる成人	セルフケアできない高齢者、医療支援必要者	成人(高齢者)
頻度	毎日(1日1~2回)	毎日(1日1~2回)	毎日2回	年に1回
実施方法	ホームケア	ホームケア	ホームケア(介護スタッフ)	プロフェッショナルケア
費用	約1,000円(25回分) <25 ppm F>	約2,000円(50回分)		保険点数(3歯薬物塗布) 46~56点
特記事項	450 ppm F, 800 ppm F フッ化物配合洗口剤は歯科医院で購入	医薬品医療機器法に則り個人輸入で購入	日本、薬機法認可されていない	歯質の黒変
洗口: プラッシングスキル不備		6~8カ月で効果アリ →その後は通常歯磨剤に換することも考慮		セルフケアできない患者にも適用可



実際の決定には関係するという話を聞き、EBMを日々の診療へどう落とし込むかというところで納得ができました。

後半は根面う蝕についての話題に移りました。進行の予測には触診が基本になり、滑沢であり硬いと静止性、粗造で皮

革様だと静止性、粗造で軟性だと活動性で、その後の予後がある程度予測できます。治療法は露髄を避けることを第一に考えるということで、清掃できないか、封鎖できないか窩のみが治療の対象となり、それ以外は進行抑制が主な目標とな

ります。歯髄方向に深い場合は、側面のみ硬い部分まで除去、歯髄側は軟化象牙質を残す方法が推奨されています。自分も治療になると歯髄の治療が必要になりますが、症状はない症例で迷う場合がありましたが、今後はこの方法に則って治療していこうと思いました。

20年間の根面の変化の症例も出されており、写真の重要性と、長期にわたった根面がたどる経過について知ることができました。患者さんにつきあっていく診療スタイルである以上は根面う蝕については避けて通れません。今後も新しい情報を取り入れていこうという、気持ちが新たになるセミナーでした。



## 歯科衛生士育成基礎コース

2023年11月19日 太陽歯科衛生士専門学校

### 参加して

#### 午前 歯周病検査の相互実習

正しい知識と操作などスライドで確認し実技に入り、硬さが違うグミで圧の感覚を確認し、口腔内での実践に移りました。

コンタクト直下、挿入角度、ウォーキングプローブ、圧それぞれできているか確認と練習をしました。

コンタクト直下とウォーキングプローブが私の課題です。角度やウォーキングプローブに集中すると圧が強くなり、視野が狭くなりました。普段のEPPがちゃんとできていなかったと痛感しました。



また、覗き込む癖があり、正しい姿勢がとれていないので、ミラーリングをきっちりやる癖をつけていきたいです。

これからの診療でしっかり練習して正しい方法を体に染みつけていきます。

#### 午後 セミナー「患者さんとの関わりが楽しくなるコミュニケーション」

伝言ゲームや連想ゲームで聴き取り方、伝え方を学びました。

スライドでそれぞれの性格タイプ別の伝え方、受け取り方についてお話を聞きました。

性格のタイプで受け取り方や話し方が全然違うこと、物事の伝え方などとても勉強になりました。さっそく次の日の診療から導入してみました。自分は話のまとめが苦手だとわかりました。紙や端末上にまとめたいので、患者さんの様子を見てわかりやすく伝えるのを続けていきます。自分ばかり一方通行にベクトルを向けてないか、患者さんが理解する間をつくられているか、やってみようかと思わ



せる言い回しができているか、一つひとつ意識的に取り入れています。

セミナーの最後に自分の目標を発表しました。ちゃんと言葉にして明確にすることで、自分を見つめ直し、目標がシンプルにクリアになりました。自分が今やるべきことはひたすらに練習と経験です。根気強く頑張っていこうと思います。第二回目もよろしくをお願いします。

宮崎真衣（歯科衛生士・新座きりん歯科クリニック）



今回、基礎コースでは歯周組織検査とコミュニケーションスキルの実習をしました。初めはとても緊張しましたが、講師の方々が温かく迎えてくださいました。

まず、歯周組織検査実習ではプローブの正しい把持の仕方や圧を確認し、自分が普段正しくできているかの確認をすることができました。

実際に相互実習で行ってみると、プロープの挿入角度やウォーキングが曖昧になってきている部分がありました。臨床に出てなかなかこういった指導を受ける機会が少ないので、初心に戻って今自分ができる、不足している部分を改めて見直し克服したいです。

コミュニケーションスキルでは、初めに“相手にしっかりと伝える”という目的で相手に伝言をする実習を行い、やってみると難しく、人にちゃんと伝えているつもりでも伝わっていない、ということがこの実習を通して分かりました。伝えるためには、ただ一方的ではなく相手

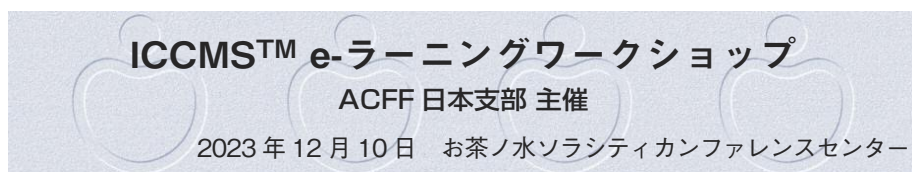
の話も傾聴することが必要だと考えさせられる時間でした。

その後の講義では、患者さんとの関わり方について学び、患者さんには様々な性格の方がいるため、行動変容につなげるための説明にタイプ別を当てはめてそれに応じた対応を行い患者さんと長くつきあっていけるよう意識していきたいと思いました。また、タイプ別に合った情報収集を行えることでその患者さんのニーズに適した治療選択ができるよう

になると感じました。

今回、この実習と講義で多くのことを学ぶことができ、臨床で活かしていけるよう日々努力をしていきたいです。ご指導していただきありがとうございます。

佐藤 栞（歯科衛生士・沼澤デンタルクリニック）



## 参加報告

2023年12月10日、ACFF日本支部によるICCMS™ e-Learningワークショップが開催された。ICDASを使用したカリエスマネジメントシステム ICCMS (<https://www.iccms-web.com/>)では、クイックリファレンスガイドが公開されており (<https://www.iccms-web.com/content/iccms-usage/education>) ACFF日本支部により日本語翻訳版も作成されて公開されている。さらに、歯科関係者向けのe-Learningが、英語、スペイン語、ドイツ語、ポルトガル語、フランス語版が公開されている。 (<https://www.iccms-web.com/content/resources/elearning>)

ACFF日本支部では、一昨年



ICCMSのe-Learningの日本語版作成を開始し、当会も内容の検討、症例写真、症例の提供などについて会員が参加して協力してきた。今回のワークショップでは、2024年春の公開（無料で使用可能）に向けて、実際に学生教育に使えるかどうかを検討するために開催された。全国の歯科大学の保存修復講座に参加を呼びかけて、18歯科大学から約30名の参加があった。10時から16時まで、日本語版ICCMS e-Learningを学生教育に関わる教員が実際に体験して、改善点の必要性の箇所などについて意見交換がされた。このICCMS e-Learningの日本語版では、カリエスリスクアセスメントとしてCAMBRA, CariogramとならんでCRASPを紹介しているのも特徴である。基本的にオリジナルを改変しないことが求められているが、日本語版作成の過程で、より適切と考えられる症例写真に差し替えを行い、症例については、カリエスリスクの変化に対して対応することが理解できる症例など5症例をヘルスケアの会員から提供して追加している。



ワークショップ後半では、林美加子理事長から、実際に大阪歯科大学3年生への歯科保存学教育でこのICCMSを活用している講義内容の紹介、そして新潟大学の野村由一郎先生からは、学生の病院実習でCAMBRAを導入していることの紹介もあり、新しいカリオロジー教育が徐々に広まっていることを知ることができた。

今後は、3月に、小児歯科や口腔衛生学講座、さらに今回参加できなかった大学にも参加を呼びかけて、今回浮き彫りになった問題点を解決した最終版を提示して、ワークショップを開催する予定となっている。カリオロジーの教育をどのように改善していくかは、ORCAでも毎年取り上げられる世界的な課題となっている。日本の歯学教育でもこれを機会にカリオロジー教育の改善が進むことを期待したい。（杉山精一 八千代市開業）





ヘルスケア歯科診療だからこそ必要な

# コミュニケーションセミナー プレミーティングinオンライン

1月上旬  
受付開始

2024年2月21日(水) 20:00 ~ Zoom ミーティング

対象：歯科医療従事者ならどなたでも

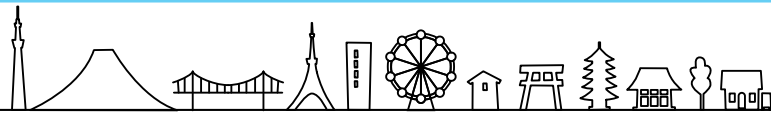
定員：100名

参加費：無料・要登録

2023年8月に開催された渡辺勝の「ヘルスケア歯科診療に必要なコミュニケーションセミナー」を、好評につき2024年9月23日(日)に開催します。このセミナーは、ロールプレイを中心にした参加型セミナーですが、どんなものか興味のある方のためにオンラインでプレミーティングを開催します。

ヘルスケア歯科診療や、チームビルディングに必要なコミュニケーションのtipsを渡辺勝がわかりやすくレクチャーします。各回はテーマを変えた独立したものになりますので、ご興味のある回のみ参加も可能です。ブレイクアウトルーム(少人数の班分け)を利用しますので、顔出しでの参加を推奨しています。

以降は毎月第3水曜日 20:00 ~



ワンデーセミナーとは  
1日で理解できる「ヘルスケア歯科診療」

## TOKYOワンデー セミナー2024<sup>ぶらさ</sup>

2024年5月19日(日) 10:00 ~

場所：日本歯科大学

東京キャンパス 141 講堂

定員：100名

【参加費】(昼食付)

会員歯科医師 10,000円

会員その他 6,000円

非会員歯科医師 13,000円

非会員その他 9,000円

研修医 2,000円

学校関係者(教員・学生) 無料・要登録

※詳細はこのニュースレターに同封のフライヤーをご覧ください。

### point

- ヘルスケア歯科診療が健康を守ることにどれだけ効果的か
- ヘルスケア歯科診療の実践がどんな医院の未来を作るのか、社会に影響するのか
- 院長目線、勤務医目線、歯科衛生士目線でのヘルスケアの価値について



## 認証ミーティング (第21回)

エントリー受付中!

2024年8月4日(日) 開催地：未定

認証ミーティングは、認証診療所の実態が総括的に理解できる  
またとないチャンスです

認証診療所とはこの「健康を守り育てる歯科医療」を「それを望む患者さんすべてに対して」、「実践している診療所」です。

認証を希望する診療所は、年1回開催する認証ミーティングでプレゼンテーションを行います。歯科の外部審査員を含む審査で患者中心の診療所づくりを重視します。